

3月1日（火）令和3年度 卒業証書授与式を行いました



卒業式は、卒業生とその保護者様、来賓として清水 PTA 会長様、在校生代表として、生徒会長のみでの参加で行われました。

校長式辞では、

「新型コロナウイルス感染症のため、他の諸行事同様に規模を縮小した卒業式となった。君達はその都度、出来る限りの工夫をして乗り切ってきた姿には感心をしている。周囲への感謝を忘れず、逆境にあってもチャレンジをして、たくましく成長した卒業生の姿をうれしく思っている。しかし、私たちの目前には SDGs、地球温暖化、国際情勢の不安等、様々な問題がある。平素より、出雲

工業高校で培った精神で諸問題と向き合いチャレンジをして欲しい。

さて、北京オリンピックが終了した。私が一番印象深かった選手はフリースタイルスキー・モーグルで5位に入賞した川村あんり選手（17歳）である。メダルが期待されていただけに、本人のショックは大きなものだったに違いないが、記者会見で川村選手が見せたのは、17歳とは思えないような周囲への気遣いだった。記者達に対して、「メダルが取れなくて申し訳ありません。沢山の方に応援してもらって、たいへん感謝しています。寒い中、集まって頂きありがとうございました。」と語っていた。落胆と悔しさで胸中一杯だったと思うが、それを見事に切り替えた気遣いが感じられた。思い通りにいかない時、自分の心をどう切り替えて振る舞うかは重要である。苦しい時、悲しい時、常に保護者さんが君達を支えてくれたが、これからは周囲への感謝と希望と勇気を持ち、今を大切に、真っ直ぐにそれぞれの道に

羽ばたいて欲しい。」というお話をされました。

PTA 会長の清水誠二さんからは「感謝の気持ちを周囲に伝えることが大切である。まずは、口に出して伝えることが自分を変える一歩である」というお話を頂きました。

生徒会長の三島侑里奈さんから「部活動を始めた様々な学校生活において3年生のすばらしいリーダーシップに感謝しています。」という送辞に対して、前生徒会長の小島陽功さんは、「高校入学後、専門教科を初めて学び、進路選択では悩んだが、クラス全体で喜びを分かち合えた。新型コロナウイルス感染症に苦しめられた3年間だったが、前を向いて生活することで未来が開けると信じている。お世話になった方々に深く感謝しつつ、出雲工業高校で学び、得た力を大切に真っ直ぐに進んでいきたい。」という答辞で応えました。

卒業式終了後、3年生保護者様を代表して PTA 副会長の米山ゆかりさんから、教職員に対してお礼の挨拶を頂きました。

